

関市が
もっといいまちに
なるための提案書

関市まちづくり市民会議の歩み

まちづくり市民会議（以下、市民会議）は平成 24 年からはじまりました。今期、第 7 期関市まちづくり市民会議は、平成 30 年 10 月にスタート。毎月 1 回程度全体会や、必要に応じて部会を開催し、これまで 10 回以上の会議を重ね、今回の政策提案に至りました。

市民会議の目的は、市民の参画と協働によるまちづくりを推進するため、市民の視点から市が抱える課題を洗い出し、課題解決のための様々な事業を提案することです。

市民会議の委員は、21 名の公募の市民により構成されています。20 代～70 代の幅広い年齢層となっております。

今期の市民会議は、第 4 期から引き続き、実践に重きを置きました。関市の課題を考え、それに対する解決策を考え、実践してみた結果を元に関市への政策提案を行います。実践をしたことで、政策に説得力が増すとともに、その政策を実行する主体についても実体験を元に検討する事ができています。

部会名	取組む課題
「生き延びる」チーム	「昼間の地域にいる高齢者が、災害時に地域内で支えられていない
「子育て」チーム	0～1 歳の子を持つ親が、地域や社会とつながりを持っていない
「@SEKI」チーム	高校生が関を楽しめていない

〈まちづくり市民会議の歩み ～主に全体会～〉

	開催日	会議内容
第 1 回	平成 30 年 10 月 21 日	問題意識の発表会
第 2 回	11 月 18 日	部会分け、地域課題を議論する
第 3 回	12 月 9 日	目指す姿・課題の原因を考える、行政へのヒアリング
第 4 回	平成 31 年 1 月	部会活動 事業を考える
第 5 回	2 月	部会別活動 事業を考える
第 6 回	3 月	部会別活動 事業を考える、事業の実施方法を考える
第 7 回	4 月	部会別活動 事業の実施方法を考える、事業実施
第 8 回	令和元年 5 月	部会別活動 事業実施
第 9 回	6 月 30 日	政策提案を考える
第 10 回	7 月	部会別活動 政策提案を考える

まちづくり市民会議の提案は？

これまで第1期～第6期のまちづくり市民会議から市へ政策提案を行いました。各提案の概要と、その提案に対して担当課から出された回答を紹介します。

【第1期】



「親子読書コンクール」(学校教育課)

概要) 夏休みに、親子で読書をし、その本の感想を親子で共有します。そして親子読書の様子を発表するコンクールの開催を提案します。

結果	採用
実施状況	<p>平成 25 年度に「ファミリー読書発表会」をとしてスタートしました。具体的には、学校等から推薦のあった家族の発表、図書館教育推進校の指定を受けている学校の発表等を行いました。平成 30 年度からビブリオトークに変更し、本の紹介をトーク形式で交流することを中心に実施し、夏休み中の読書意欲を喚起します。内容としては、小中学生が、これまでに読んだ本の中から、お勧めの本を1冊取り上げ、その本の魅力を紹介します。</p> <p>今年度は7月26日に実施予定で、小学生4名、中学生6名の合計10名が参加予定です。</p>



「子どもたちの地域間交流」(学校教育課)

概要) 市内の小中学生が、関市内の各地域の魅力を知るために、旧関市内と合併地域とで交流事業を実施することを提案します。

結果	不採用(既存の事業を拡充します)
担当課からの回答	<p>平成 24 年度から行っています「中学生リーダー養成研修会」において、例えば武儀・上之保地区を尋ねて、その地域の自然や文化等を題材にして交流を図るなど、工夫して実施したいと思います。</p>



「学校のHPの改革」(学校教育課)

概要) 学校への理解者を増やし、自校の教育活動をより活発化するためには、まず、学校が生きた情報を出し続けることが必要であり、そのために、教師とPTA、子どもたちが力を合わせて学校のホームページを作成することを提案します。

結果	採用
実施状況	<p>保護者はもちろんのこと、地域住民の学校への理解を深め、地域の学校としての位置づけを高めるため、学校の情報を積極的に発信する一助としてHPの工夫改善に取り組んでいます。</p> <p>また、新しい情報を容易にかつ迅速に掲載できるように、平成26年度に市内30校が基本的に同じフォームになるHPの作成をしました。現在は、統廃合により小学校19校、中学校9校の合計28校でHPを公開しています。</p>

提案
4

「SNSを活用した親と教師・学校をつなぐコミュニケーション」(学校教育課)

概要) 親と教師のコミュニケーションを図るために、Facebookグループ等のSNSを活用する。

結果	不採用
担当課からの回答	<p>「親と教師・学校をつなぐコミュニケーション」は非常に重要なことです。顔を合わせて話すことが最も基本的で大切な方法だと考え、各学校では、保護者が学級担任以外の職員にも気軽に相談できるよう、年度当初のPTA総会や案内文書で積極的に相談窓口等を紹介しています。SNSもコミュニケーションの一つの方法ですが、互いの真意を伝えることが難しいことが一番の課題と考えます。また、送信するのは気軽にできる反面、同時期に多数の質問や意見等が学校に寄せられた場合、その一つ一つに丁寧に対応しようとするとどうしても時間がかかり、迅速に対応できなくなることも十分に考えられます。</p>

提案
5

「子ども、親、教師が参加する学校対抗の行事」(学校教育課)

概要) 日常的に学校の情報を共有することは大切だが、親、子どもと教師が一緒になって行事に取り組むことで、心の一体感が生まれる。そこで、親、子ども及び教師と一緒に活動に取り組む機会がなかなかなかったことを踏まえ、誰でも参加できる軽スポーツ(たとえば、綱引きや玉入れ)を学校対抗で行うことを提案します。

結果	不採用
担当課からの回答	<p>子どもと親と教師が一堂に会し、学校対抗を行う行事の開催は難しいと考えています。現在、「連合音楽会」(小・中)やタグラグビー(小)、水泳記録会(小・中)、「わたしの主張大会」(中)のほか、スポーツ少年団や中学校部活動の各種大会など通して、学校間の児童生徒の交流が行われていますが、この交流がさらに豊かなものになるよう働きかけをしていきたいと思えます。</p>



「関シティバス・デマンドバスの導入」（市民協働課）

概要) 利用者の移動目的に合った地域公共交通を提供するため、デマンドバスの導入を提案します。

結果	採用
実施状況	<p>富野、田原、迫間、向山地域はデマンドバスで、下有知、瀬尻・広見地区は、デマンド乗合タクシーで運行しています。</p> <p>地域や利用者の要望をお聞きし、時刻表の改正時期に合わせて、定期的に乗降所の新設を行っています。また、ファミリーマートと協定を結んでいます。</p> <p>利用者や運転手が待ち時間内に店内を利用でき、利便性の向上が期待できることから、デマンド乗合タクシーの運行エリア内の全店に乗降所を新設しました。</p>



「シティバス・定期乗車券の導入」（市民協働課）

概要) 公共交通の通学利用者を増加させるため、バス定期乗車券の導入を提案します。

結果	不採用
担当課からの回答	<p>定期乗車券の導入により利用者の若干の増加は期待できますが、通学利用者の運賃を割引くことによる収入が減少することが考えられます。したがって、関市シティバスの定期乗車券の導入は、現状では効果が低いと思われるために、今後、慎重に検討していきます。なお、現在、シティバスの回数券(100円券が11枚綴りで1,000円)を販売していますので、市民周知を行い回数券の利用促進を図っていきます。</p>



「関シティバス・市民サポーター制度の導入」（市民協働課）

概要) 持続可能な公共交通を実現するため、市民サポーターによる支援組織を設置することを提案します。

結果	不採用
担当課からの回答	<p>長良川鉄道につきましては、マイルール意識、存在の意義について市民の方に理解をいただいて様々な形で市民の皆さまからサポートしていただいておりますが、シティバスについてはまだその意識が薄いのが現状です。地域の公共交通を確保するために関シティバスの利用しやすい仕組みや路線を考え、改善を行っていく中で、関シティバスをはじめとしたバス交通の必要性を理解していただくことが優先だと考えています。</p>

現在はバス車両を利用した広告掲載によって一部サポートをしていただいていますので、企業や店舗に対して広告掲載を募集しています。

提案
9

「関シティバス・観光事業との連携」（市民協働課）

概要）新たな利用者を増やすため観光事業との連携を提案します。1日フリー切符の導入、公共交通で楽しむ関市観光ガイドブックの作成、乗車特典等。

結果	不採用
担当課からの回答	平成26年4月に完成した関シティターミナルの待合所には、観光案内板や特産品販売のショーケースを設置し販売を開始しました。関シティターミナルの乗継拠点としてのPRおよび、シティバスを活用した観光ルートとバス路線図をまとめたガイドブックの作製を行い、関市観光協会と協力し、今後関シティバスを観光利用につなげていきたいと考えております。なお、1日フリー切符の導入は、利用者数や利用料金などの面で効果が低いと考えられますが、今後の課題として研究します。

提案
10

「長良川鉄道・トロッコ列車の復活」（市民協働課）

概要）観光目的の利用者を呼びこむ目玉として、かつて存在したトロッコ列車の復活を提案します。

結果	不採用
担当課からの回答	平成26年3月に沿線市町職員で構成される長良川鉄道再生研究会から沿線市町首長（取締役）に対して観光用車両の提案を行いました。 長良川鉄道からは導入に当たり、コスト面の詳細な分析、調査や線路等施設の耐久性調査等様々な課題があるという回答を得ています。 現在、トロッコ列車ではありませんが、観光列車の導入に向けて準備を進めています。

【第2期】

提案
1

「将来の想いに火を灯せ（カタリバ等の実施）事業」（学校教育課）

概要）市内の中高生を対象に認定NPO法人カタリバを招いて講演会またはカタリバ体験会を開催し、将来を話し合う対話スタイルについての理解を深めます。継続的に関市内で実施していくための実行委員会を組織し、その市民ボランティアを広く募ります。

結果	不採用
担当課からの回答	高校生に有効だと考えるので、市の教育委員会として働きかけることができる関商工高等学校に、キャリア教育の一環として紹介できます。

提案
2

「キャリア・コーディネーター設置事業」（学校教育課）

概要）より充実したキャリア教育を、より円滑に行うために「キャリア・コーディネーター」を学校に配置します。キャリア・コーディネーターは、生徒の相談対応や学校と企業等との調整役を果たします。

結果	不採用
担当課からの回答	キャリア教育に外部人材を登用して充実を図るということについて、内容や方法を十分に検討した上で実施を考えたいです。 今年度は、トップアスリートを招いて夢をかなえることの大切さや、夢をかなえるために努力することの大切さを学ぶ「夢教室」をキャリア教育の一環として開催します。

提案
3

「関市版キッズニア事業」（学校教育課、商工課）

概要）子ども向け職場体験型テーマパークが都市で人気です。そこで関市でも市内に様々な職種・職場があることを活用し、子どもたちに地域にある職場で仕事を楽しく体験してもらいます。「ハサミを組み立ててみよう」「ミシンを踏んでTシャツを作ってみよう」等、関の産業を見ることは郷土教育にもなります。

結果	不採用
担当課からの回答	<p>小学生の職場体験は、職業を疑似体験することに矮小化されないよう配慮することと、児童の発達段階を考慮して、慎重に進めるべきと考えます。また、中学校で行っている職場体験との共通点や相違点を明らかにして、検討する必要があります。また、国の教育改革の動きが加速しており、この事業の優先順位は低く実現できません。(学校教育課)</p> <p>関市でテーマパーク的に集約して、多様な職業を体験できるようなメニュー化は難しいと考えます。今年度は「関の工場参観日」を夏休み期間(8月26日～29日)に設定し、子ども向けのメニューも多数用意しているので、ぜひ参加していただきたいと思います。(商工課)</p>

提案
4

「キャリア教育の日の制定(学校教育課)」

概要) 市民みながともに話し合い、高め合う日としてキャリア教育の日の制定を提案します。

結果	不採用
担当課からの回答	<p>キャリア教育に対する市民への啓発にはたいへん有効な提案であると考えます。具体的な活動内容について、学校等との調整を図りつつ、実現に向けて検討したいと思います。しかし、学校はそれぞれの地域の実状に合わせた地域との連携した事業に取り組んでいるため、関市全体でキャリア教育の日を制定するのではなく、各学校が取り組むべき事業に優先順位をつけて取り組むことが重要と考えます。(学校教育課)</p>



提案
5

「市長、部長インターンシップ」(職員課)

概要) 関市内の若者に、関市長、部長へインターンシップする事業を提案します。

結果	採用
担当課からの回答	<p>大学や若者の要望・意見等により提案された内容を一部修正し、平成27年度より若者の行政に対する仕事理解と職業観の育成を目的としたインターンシップを実施しています。</p> <p>対象：高校生から大学生まで 期間：8～9月のうち、5日間程度 募集人数：20人程度</p>



提案
6

「学生による投票率アップチームを結成」(総務管財課)

概要) 若者の投票率を上げるために、学生による学生に向けた投票率アップを訴える広報を考える事業を提案します。

結果	採用
実施状況	平成26年度、学生を公募し、学生による啓発グループ「ikomai プロジェクト」を結成しました。成人式や関まつりなどの行催事や大型店舗にて投票率向上のための啓発活動を行っています。

提案
7

「高齢者いつでもサロン」(市民協働課、高齢福祉課)

概要) 高齢者が集まるために、誰もがいつでも気軽に立ち寄れるような常設の談話室のような空間「高齢者いつでもサロン」を提案します。

結果	不採用
担当課からの回答	<p>高齢者にとってたまり場は必要不可欠な場所であるため、市が取り組んでいる地域委員会(概ね小学校区を単位として設置)の取り組みとして提案していきたい。(市民協働課)</p> <p>提案にある場所での常設サロンの開催は困難であると思われます。現在常のサロンとしては、高齢者たまり場創造事業のモデルとして、シルバー人材センターに委託している「にこにこサロン」を本町で開設しています。歩いて行けるような身近な地域ごとのサロンとしては、社協支部の活動を地域委員会や老人クラブ、まちづくり委員会などと連携し、地域の実状に合った開催を検討する必要があります。(高齢福祉課)</p>

提案
8

「好きなことバンクと助け合いポイント制度」(企画政策課、高齢福祉課)

概要) 高齢者の好きなこと、得意なことを登録した「好きなことバンク」の設立と、日常生活の助け合いを気兼ねなく行うために「助け合いポイント制度」を提案します。

結果	不採用
担当課からの回答	<p>対象者を高齢者に限らず、ボランティア活動が広く市民に普及する仕組みを、地域通貨の導入と併せて研究していきます。(企画政策課)</p> <p>シルバー人材センターに委託している「ワンコインふれあいサポート事業」と重複する部分があるように思われるため、事業の棲み分けを十分検</p>

	討する必要があります。社協や市の関係課とも協議をしながら、導入できるかどうか検討します。(高齢福祉課)
--	---

提案
9

「地域コーディネーター育成事業」(高齢福祉課)

概要) 提案7、8の事業を行うためには、高齢者の取りまとめ役となるコーディネーターの存在が不可欠です。地域コーディネーターの育成事業を提案します。

結果	不採用(既存の事業を拡充します)
担当課からの回答	<p>まずは、高齢者自らが、自分たちが主体となり、地域づくりをしていくという意識づくりが重要であると考えています。生産年齢の減少により、労働力はますます減少するので、元気な高齢者に頑張っていただき、支援の必要な高齢者の支えになっていただきたい。持続可能な社会を存続するために元気な高齢者の力を期待しています。(高齢福祉課)</p> <p>地域リーダーの育成事業として「地域づくり型生涯学習コーディネーター育成研修」や「まちづくりリーダー養成事業」に取り組んできました。新たに事業を立ち上げるより、この事業に高齢者の視点を取り入れた内容を位置づけ、講座受講後の実践の場を提供します。(生涯学習課)</p>

提案
10

「幸せ創造授業」(学校教育課)

概要) 子どもの頃から人口減少時代の幸せについて考えることを定期的に行うことが大切です。小中学校で、人口が減って行く現状を教え、その後、その世界で「自分が幸せに暮らすために」について考える時間をとります。

結果	不採用
担当課からの回答	<p>学校教育でぜひ取り上げたい内容です。実施方法は各学校の判断に任せますが、家庭教育学級説明会や校長会等において幸せ創造授業の実施を提案します。</p>

提案
11

「幸せ実現企業」(商工課)

概要) 提案10で出た中学生からのアイデアを関市の企業が本気で実現する場「ビジネスアイデアコンテスト」を提案します。

結果	不採用
担当課からの回答	「ビジネスプラス展 inSEKI」の場を活かす事が有効であるとの提案なので、秋に初めて開催する「関の工場参観日」も含め、実行委員会を組織しているので、提案の報告をしながら検討してまいります。(商工課)

提案
12

「幸せ応援行政」(商工課)

概要) 提案 10、11 を取り組む上で、行政が金銭的、人的にサポートすることを提案します。

結果	不採用
担当課からの回答	企業の商品開発のために補助することは難しいと考えます。提案事業2にあるような子どもたちのアイデアコンテストと連動した支援を検討します。

【第3期】

提案
1

「関のグルメの新提案 関デカ盛りプロジェクト」(観光交流課)

概要) 各種飲食店が、常人では到底食べることができないその店オリジナルの“デカ盛りメニュー”を考案し提供する。その各店がチームとなり、さまざまな情報発信から誘客、経済活性につなげます。

結果	現状、不採用
担当課からの回答	<p>今回ご提案頂いた企画やコンセプトについては、市(行政が)中心となって実施するものではなく、熱意ある各店舗や商店街等との連携により実施するものと考えます。提案のありました事業について、各種店舗が集まる観光協会等において意見を聞き、連携して取り組んでまいります。</p> <p>→(現在の状況)今のところ関係業界からの反応はないが、次回の観光協会総会で意見を聞いたり、各種業界に文書などで照会しながら、反応を見ていきたい。</p>

提案
2

「小瀬鵜飼コンパ開催」(観光交流課)

概要) 千有余年の伝統漁法「小瀬鵜飼」が行われる小瀬鮎の里で、男女が出会う機会を創出。幽玄なかがり火が、燃え盛る恋の炎に変わります。

結果	現状、不採用
担当課からの回答	<p>小瀬鵜飼保存会、観覧船事業を運営している関遊船株式会社、そこにかかわる船頭さんら関係者と、今回の提案について情報提供し意見交換を行います。また、鵜飼婚活の実施の際には、生涯学習課(公民館)における婚活施策や街コンを行う団体とも連携したいと考えています。</p> <p>→(現在の状況)今のところ反応はないが、引き続き、小瀬鵜飼保存会、観覧船事業を運営している関遊船株式会社、船頭さんら関係者と意見交換をし、実施に向けて検討を重ねたい。</p>



「わかもの活躍サポートセンターの設置」(市民協働課)

提案
3

概要) 市内に点在し、活動時間も様々な若者を集めるにはどうしたらよいのでしょうか。高齢者のたまり場作りが進められているように、若者のたまり場ともいえる施設を設置してはどうかと考えました。

提案
4

「若者まちづくり会議の開催」(市民協働課)

概要) 関市まちづくり市民会議は多世代の集まりです。若者にスポットを当てた、福井県鯖江市のJK課や全国各地で開催されている“若者会議”を関市でも設置してはどうかと考えました。

結果	採用
担当課からの回答	<p>関市市民活動センターの事業として「関のわかもの会議」を実施しています。関市の若者が集まり、関で多様な働き方・暮らし方を学び、若者同士の語らいの場を作っています。参加した若者が関市の街に関心を持ちかもの自ら活動を始めることを促進します。</p> <p>また関市では、平成28年度から高校生を対象とした「まちづくり倶楽部」が実施されました。そして、平成29年度には高校生の主体的なまちづくり活動を目的とした「VSプロジェクト」の活動へ移行しました。プロジェクトメンバーによる課題解決型の事業の実施や自分たちのやりたい企画の実践、関市内の見学、多様な方々との交流などを行っております。</p> <p>将来的には、関市のまちづくりプレーヤーに繋がることを目標に事業を推進しています。</p>

提案
5

「新ブランド『刃モノ一生モノ』の設立」(商工課)

概要) 新ブランドとして『刃モノ一生モノ』を立ち上げます。「一生使える物」という絞り込みを行い、企業から「一生使える刃物」、「一生メンテナンスの約束ができる刃物」公募し、外部認定委員会が認定します。

結果	現状、不採用
担当課からの回答	<p>→ (現在の状況) 関市の刃物は高い評価を受けておりますが、企業ごとでブランド展開されている場合が多いかと思えます。しかし最近では、今治タオルなど産地ブランドが浸透してきておりますし、刃物会社様とはビジネスプラス展、工場参観日、はもけんなどの行事も含め関係を持っており、今後もブランディングについても引き続き意見を聞いていきたいと考えております。</p>

提案
6

「関は『刃物を使う町』『刃物を贈る町』として
市民からムーブメントを起こす事業」(商工課)

概要) 関市民は刃物を使うまち、贈るまちであることのムーブメントを作ります。刃物のまちとして、市民が使うこと、贈ることを気に留め、行動に移すことで、市民の取り組みが話題を呼び、外部に向けた関市自身のブランディングへの一役となります。

結果	不採用
担当課からの回答	→ (現在の状況) 市では、伝統的な刃物が市民の皆様にとって、より身近に感じていただけるよう「ビジネスプラス展、工場参観日、はもけん」など刃物を身近に関われるイベントを行っています。これからも市民の皆様のムーブメントに合わせて、取り組んでいきたいと思ひます。

提案
7

「わがまち防災会議の開催」(危機管理課)

概要) 市全体ではなく、小学校区単位で防災会議を開催する。地域住民が、地域で起こり得る災害について話し合い、避難方法など行動計画をつくることを3年毎に実施する。

結果	現状、不採用
担当課からの回答	<p>地域で起こりうる災害を学び、訓練が実施できるよう、地域委員会や自治会連合会支部などに対して、先進地区の事例などを紹介したいと考えます。また、すでにある防災訓練補助金を有効に活用いただき、防災会議等が実施できるよう要綱の見直しや予算確保に努めます。さらに、提案をいただきました防災会議の講師紹介なども、市として積極的に行います。</p> <p>【回答】</p> <p>→ (現在の状況) 多様な訓練を行っていただけるように防災訓練補助金要綱を見直し、予算の確保を行いました。また、岐阜大学内に設置された「清流の国ぎふ防災・減災センター」に講師派遣の協力を依頼しました。</p>

提案
8

「運転免許更新時における災害 DVD の視聴」(危機管理課)

概要) 運転免許更新時の交通安全講習会に交通安全啓発用DVDとともに防災啓発用DVDを視聴してもらう。運転免許保有者は、毎年ではないものの必ず3～5年に1度受講するため、防災意識を向上させる良い機会となる。

結果	不採用
担当課からの回答	<p>関市で実際に発生した災害を題材とするDVDについては、防災を身近に考えるための教材として活用できると考えますので、DVDの制作を検討します。</p> <p>→ (現在の状況) 関市で実際に発生した過去の災害の調査を行うだけでなく、関市で起こる可能性の高い災害についても調査を行いDVD製作の検討を進めます</p>

提案
9

「非常食を活用した料理コンテスト・料理教室の開催」(危機管理課)

概要) 行政が備蓄している災害用非常食を使った料理コンテストや料理教室を開催する。消費期限が到来する災害用非常食を防災訓練などで単に配布することよりも有効活用することができる。

結果	不採用
担当課からの回答	<p>→ (現在の状況) 非常食を使った料理のレシピは、既に多く公表されており、その中から関市が備蓄している非常食などを用いた料理について、防災訓練などの各種イベントで紹介できるよう検討しています。</p>

【第4期】

提案
1

若者向けにアプリ、メールで関のお店情報の配信を(安心メール活用)(市民協働課)

概要) 安心メールの選択項目の一つとして、「若者向け、市内の魅力的なお店の紹介」を追加します。定期的に、お店の記事が配信される仕組みです。配信される情報は、提案1等で作成したもの等が考えられます。この情報を配信するための学生チームをつくることも有効だと考えます。

結果	不採用
担当課からの回答	市が特定のお店や遊びの場所を紹介することはできませんので、観光協会や商工会議所などの協力が必要です。若者に向けた関市紹介アプリなどの開発支援を、市民活動助成金をできるのではないかと考えます。今後の展開としては、商工会議所等を通じて商店の学生割引拡大やPRなど若者に向けた発信が増えるよう働きかけをしていきたいと考えます。 あんしんメールを使ったグルメ情報の発信について積極的な考えではありません。

提案
2

関市の魅力的なお店を書いた情報紙を学生が中心に作成。それを入学式に配布する。(市民協働課)

概要) 現在、岐阜医療科学大学では、学生自治会が中心となり、関市のお店情報を作成し、それを入学生に配布しています。それを、関市全域に広げては如何でしょう。市内の大学生とサポートする大人が集まり、「チェーン店だけではない、関の魅力的なお店」の情報紙を作成し、関の大学、専門学校の新入生全員に配布します。

結果	採用
担当課からの回答	市が特定のお店を紹介した情報紙を作成することは困難ですので、学生自治会が中心に実施していただくことが良いと思います。サポートとして、「関市市民活動センター」に入ってもらい、市民から見た情報なども盛り込めると良いと思います。関市のお店情報を観光情報などと併せて、大学の学生自治会に作成、配布していただき、それに対して市民活動助成金で支援します。観光情報やお土産情報、さらに市内のバス運行や長良川鉄道などの公共交通に関する情報が、学生向けに発信されていないことがわかります。作成にあたり、掲載する情報を、関係課と大学で打ち合わせます。



提案
3

- 路線バスを使った観光モデルコースをつくる
- 路線バスで観光地に行くことを呼び水に、路線バスの乗り方講習会を開催（市民協働課）

概要) 今回の板取ツアーのように、現在既に走っている路線バスで観光できるためのモデルコースを作ります。季節ごとに、板取だけではなく、上之保や武儀へのツアーを作ります。また、その路線バスで観光の旅を企画する時、最初の1日目に、案内人もついての路線バス乗り方講習会を実施します。

結果	採用
担当課からの回答	公共交通を使った市内の観光スポットを巡る4つのモデルコースを平成29年8月広報で特集しました。モデルさんにコースを回ってもらい、感想を記事にしています。 また、岐阜バスと連携し、路線バスの往復乗車券と武芸川温泉又は上之保温泉施設の入浴券をセットにしたお得なきっぷの発売を企画し、平成30年9月から販売開始しています。

提案
4

- 関市における貧困家庭の数を把握する「相対的貧困率」の調査をしてください（福祉政策課）

概要) 世界的貧困の指標である「相対的貧困率」で、関市の貧困家庭の実態調査をする。

結果	不採用
担当課からの回答	貧困率の算出には、世帯ごとの収入や支出についての各種データを幅広く収集して計算する必要があります。現時点では調査方法などについて確立されておらず、困難ではないかと考えます。また、市町村単位で貧困率の算出を行ったとしても、それだけでは他の市町村等との比較をすることができないため、得られたデータをより効果的に活用するためには、ある程度、自治体間の比較ができるように調査方法等を統一して実施することが望ましいと考えます。



提案
5

- 学習支援を実施してください（福祉政策課→子ども家庭課）

概要) 定期的（週1回、2回程度）な学習支援を実施する。定期的に実施していくためには、今回のようにボランティアのみでの運営は難しいと考えます。関市として予算化し、実施していただく必要があります。

結果	採用
担当課からの回答	平成 29 年度より関市ひとり親家庭の子ども学習支援業務及びコーディネーター委託事業にて、「NPO法人子援隊」が週 2 回実施しています。 また、ときめき事業にて西部地区の「いちょうの会」が地域の子どもの居場所づくりの活動をする中で学習支援を行っています。




子ども食堂を実施してください（福祉政策課）

概要) 学習支援に合わせて全国的に広がっている子ども食堂を実施する。

結果	採用
担当課からの回答	「子ども食堂」を実施する市民団体への支援をします。平成 29 年度より「関市子ども食堂運営事業補助金」を実施し、今年度は、「NPO法人ヘルシーライフせき」が 2 か所と、社会福祉法人桜友会が 1 か所で月 1 回ひとり親を対象に子ども食堂を開設し補助を行っています。 また、「道の駅むげ川」にて、武芸川地区の子ども対象に「武芸川子ども食堂」が、西部地区の「いちょうの会」によるときめき事業の子どもの居場所づくり（学習支援）の活動の中に軽食提供があります。

【第5期】


 **提案 1** 子どもミュージアム商店街を継続して実施するための初期費用のサポート
 してください（商工課）

結果	採用
担当課からの回答	商店街を中心とした実行委員会が主体として事業運営を担っており、市としては、参加者募集のための小学校へのチラシ配布、当日の運営補助を行いました。 今後の事業継続を見据え、財源含め事業を持続できる方法を検討していきたいです。

提案 2 鵜飼に来たお客さんへ「小瀬・池尻周遊観光」のオプションツアー(有償)を作るお手伝いをしてください（観光交流課）

概要) 鵜飼に来たお客さんへ「小瀬・池尻周遊観光」のオプションツアー(有償)を作るお手伝いをしてください。将来的な運営は「関遊船」もしくは「関市観光協会」に任せることを前提に、オプションツアーを作るための、ガイドの育成、ツアーの企画、立ち上げの広報等のお手伝いをお願いします。

結果	保留
担当課からの回答	周遊地域への回遊性を高める施策の一つとして、オプションツアーの手法は効果的であり、今後チームで研究される時にはアドバイスさせていただきたいと考えます。

 **提案 3** 鵜飼乗船場に、「小瀬・池尻周遊観光」のマップ、看板を設置してください。（観光交流課）

結果	採用
担当課からの回答	池尻周遊観光の看板は設置いたしました。周遊観光のマップについては関係課と連携しながら作成する方向で考えていきます。

 提案
4

大学と市が連携した講義を提供してください（市民協働課）

概要) 関市のまちづくりや、歴史、福祉の現状が学べる講義を関市から提供してください。福祉・医療に関しては、担当の市職員や関市の施設での実習など、関市の実情から学べる機会を作ってください。

結果	採用
担当課からの回答	<p>中部学院大学では、平成 30 年度より地域の福祉やまちづくりを学ぶ機会を提供する授業を年 1 回実施しています。</p> <p>また、岐阜医療科学大学では、ボランティア技法の授業の中で、市職員が大学に行き、学生が提案する地域課題解決事業の意見交換を実施しています。</p>

 提案
5

大学と市民合同の関市を知って楽しむためのサークル活動立上げに対してコーディネーターを置く支援をしてください（市民協働課）

概要) 今回の企画でサークル結成の意向のあった学生たちを中心に、学生が関市の魅力的なスポットを訪れたり、イベントに参加できたりする活動を市民と大学生との合同で立ち上げます。市民や大学をまたがる活動になるため、その運営には、間に入って調整するコーディネーターが必要だと考えます。設立して軌道に乗るまでコーディネーター支援をいただき、徐々にメンバー内でできるようにしていくことが望ましいと考えます。

結果	採用
担当課からの回答	<p>市民協働課と市民活動センターとで連携し、具体的なコーディネートの内容を検討し、コーディネーター設置事業を試行的に実施する方向で進めていきます。</p>

 提案
6

広報せきに大学生向けの情報の提供をしてください（秘書広報課）

概要) 住民票を移さずに関市に移住してきた学生へ、広報せきを配布してください。大学生の暮らしに役立つ情報ページを、広報せきに設けてください。市からの情報の提供だけでなく、大学生が自身の目線から必要な情報を提供できるページとして設けてください。

結果	採用
担当課からの回答	<p>広報は、市の取り組み、市民生活に役立つ情報などを広く周知することを目的とした刊行物であり、店舗やアルバイト、クーポン情報などを掲載する雑誌とは差別化しています。</p> <p>また、広報は幅広い年齢層の方々に役立つ情報を掲載していますので、大学生の生活においてもご活用いただける内容となっています。H31.1からは、若者にも手に取ってもらえるよう表紙をはじめとしてイメージを一新して製作しています。</p>

【第6期】



昼間の観覧船を活用したツアーの実施や、様々な人や団体が 昼間の観覧船を活用できる仕組みを作ってください。(観光課)

概要) 小瀬周辺地域を楽しむツアーと観覧船の乗船をセットにした企画を実施してください。また、より多くの人や団体が、観覧船を活用できる仕組みづくりとして、昼間の観覧船を活用する場合の、金額や時間等明確なメニューやルールをつくることや、船の費用の補助を検討してください。

結果	採用
実施状況	現在、昼間の時間や空き時間の船の利用について紹介いたしましたが、関遊船株式会社の利益の見込みが立っていないため、具体的な企画立案に至っておりません。



子どもたちの定期的な川遊びプログラムを実施してください(観光課)

概要) 関の魅力的な資源として、川に親しみ育つことが当たり前になるために、定期的に川遊びプログラムを実施してください。
また、子どもが川に親しむことが当たり前になるためには、親も川を親しむことが必要です。そのために、川遊びができる親を育てるプログラムや、川の危険性を学ぶプログラムの実施してください。この企画の運営には、川の達人を集めた団体ができ、実施を担うことが理想です。そのために、当初は、市民活動助成金の行政提案メニューである「いきいき」助成金にて、公募するところから始めてもらうことが良いと考えます。


結果	採用
実施状況	ご提案いただいた通りまさに市民活動であるため、助成金を活用し活動いただける団体、個人の方が活躍いただけることを期待しております。



民泊に興味のある市民へ、民泊に関する説明会を定期的実施してください。また、民泊経験者も説明会に参加するような説明会を実施してください。(観光課)

概要) 1ヶ月に1回程度など定期的に、市民に向けて民泊の状況や、法律、申請方法に関する説明会を設けてください。
また、その説明会に市民の民泊経験者による体験談を話す機会を設けてください。


結果	採用
実施状況	<p>関市内における新たな民泊提供者を増やすための説明会や講演会、民泊提供者とゲストを結びつける世界最大級のサイト『Airbnb』を活用した事業実施を検討していきます。</p> <p>また、第52回刃物まつり開催期間中に実施するイベント民泊に関して、興味がある方向けに説明会を実施いたします。人数により個別に説明を行います。観光課までご連絡ください。</p>

 **提案 4** 関市内の民泊を実施した市民がどこで実施しているか、また民泊の始め方を集めた事例を情報として集約・閲覧出来るようにしてください。(観光課)

概要) 関市内の民泊を実施した市民がどこで実施しているかをリーフレットのような形で集約してください。

また、民泊の始め方(どのように家族の協力を得たのか、どのような手順で始めるに至ったのかなど)を集めた事例を民泊説明会時に渡すなど、情報として発信し、民泊を始めたい方へ周知してください。

結果	採用
実施状況	<p>関市内における新たな民泊提供者を増やすための説明会や講演会、民泊提供者とゲストを結びつける世界最大級のサイト『Airbnb』を活用した事業実施を検討していきます。詳細につきましては民泊サイトをご覧ください。</p>

 **提案 5** ボランティアネットワークを行政が音頭をとって作ってください。(市民協働課)

概要) 大学内にはボランティア活動を行う団体がいくつかあります。これらの団体と、ボランティアを必要とする地域へ呼びかけていただき、両者をつなぐネットワークの立ち上げを主導して行ってください。

結果	採用
実施状況	<p>市民活動センターが主体となり、市内にある中部学院大学、岐阜医療科学大学のボランティアサークルに声かけを行い、意見交換会を実施します。</p>



ボランティア受け入れ側への研修や、コーディネートを行ってください。
(市民協働課)

概要) ボランティアや大学生の協力を必要とする地域団体(受入側)に対して、プロジェクト型ボランティアとして募集できるように、指導してください。大学生との窓口は提案1のネットワークからつなぎたいと考えます。地域団体独自でボランティア募集をかける前に、ボランティア内容、目的、期間、募集人数、参加方法、得られる経験などをきちんと明確にし、大学生にとって参加したいと思うボランティア募集内容作りへのアドバイスをネットワークに参加し地域団体へ行ってください。

結果	採用
実施状況	<p>市民活動センターが主導となって地域でまちづくり活動を行う「地域委員会」を対象に、ボランティアの受け入れ側の研修会を開催します。先進事例としては、岐阜市ではボランティアの受け入れ側の研修を実施していたり、三重県では「ピタゼミ」というゼミ型ボランティアと地域をマッチングする取組があります。これらを参考にし、研修会を実施し地域でのボランティアの受け入れ体制を整えます。その後提案1で構築したネットワークを活用し、学生ボランティア団体と地域のマッチングを行います。</p> <p>今年度は、地域委員会を対象に岐阜NPOセンターが実施している「ボランティアの受入側の研修」の案内を送付しました。今後は市民活動センターと協働でボランティア受入側の研修を企画していきます。</p>

高齢者が災害に備え、生き延びるために

私たちが目指す関のまちづくりの宣言文

私たちの目指す姿は、「昼間の地域居残り組（一人暮らしの高齢者）が、

災害が発生しても地域と協力して生き延びる」という関市です。

そのために、「災害に対する備えを本人が自分で何とかする気がない」

という課題に取り組むことにしました。

課題の原因は「本人が事前の備えとして何をしたらいいかわからない、

本人と直接つながれる地域の団体の人たちが防災の啓発までしていな

い、本人と直接つながれる業者が防災の啓発までしていない」ですが、

今回は特に「本人が事前の備えとして何をしたらいいかわからない」に

対して取り組みます。これを解決するために、行政、企業、市民活動な

どの他組織の活動を踏まえ、私たちは「防災士がいる」という強みを生

かし「地域減災」事業をすることで、関市の課題解決にもっとも貢献す

ることができると考えています。

だから私たちは「本人の意欲が高められる地域減災を実施する」こと

で「昼間の地域居残り組（一人暮らしの高齢者）が、地域と協力して生

き延びるという関市を実現します。

I 取り組んだ課題

本人が事前の備えとして何をしたらいいか分からない

【その理由と根拠】

このテーマにおける課題の原因は何か、担当課を交えながら、部会メンバーで議論しました。

1. 本人が事前の備えとして何をしたらいいか分からない

災害は実際に起きてからでないと、危機意識が高まりにくいものです。関市は昨年度に上之保、武儀、富野地域において水害が発生しましたが、他の地域では大きな被害が発生しなかったため、地域間で危機感に差があります。ましてや、近くに家族のいない高齢者や、特に日ごろからの地域とのかかわりが少ない高齢者は、身近な人からの、防災に対するはたらきかけが少なく、なかなか危機意識を持つことが難しいと考えます。高齢者本人も、災害に対する事前の備えとして何をしたらいいか分からないため、そのまま放置してしまうと考えられます。最も大切なのは「自助」で、まずは防災に関心を持ってもらうことから始め、本人に危機意識を持ってもらうことが大切です。

2. 本人と直接つながれる地域の団体の人たちが防災の啓発までしていない

対象者である高齢者の中には、普段から地域とのつながりが薄い人もいると考えられます。活動的な高齢者は地域行事など積極的に参加していますが、つながることに疎さを感じている方の中には、近隣の人ともほとんど関係を持っていない方もいます。そのような方とつながりがあるのが民生委員や社会福祉協議会などですが、防災の観点から啓発することは現状としてはありません。

3. 本人と直接つながれる業者が防災の啓発までしていない

地域とのつながりが薄い高齢者との接点は、民生委員などの地域の団体の人たちのほかにも、業者などがあげられます。しかし、業者も同様に、防災の観点から啓発することは現状としてはないと考えられます。

今回は、「本人が事前の備えとして何をしたらいいか分からない」に取り組むことにしました。

II 取り組んだ活動

地域防災勉強会「地域自主防災の仕組みづくりを学ぼう」の実施

地域の人や地域が守る、そのためには地域の一人ひとりが何を学び、誰がどう動くのかを考えていく必要があります。講師の村岡先生から、地域での防災の取り組みには何が必要かを教えてもらう勉強会を開催しました。その後、参加者の皆さんと部会メンバーで意見交換会を開催しました。

日時：平成31年4月9日（火）18時30分から20時30分

集合場所：富岡ふれあいセンター

参加費：無料

参加者：18名

事業費：21,500円（講師謝礼として）



地域防災勉強会
**地域自主防災の
仕組みづくりを学ぼう**

2019年
4月9日（火）
18:30～20:30

富岡ふれあいセンター
関門市平賀506番地1

参加費 無料
定員 30名

講師
むらおか はるみち
村岡 治道氏
岐阜大学 地域防災研究センター
清流の国ぎふ 防災・減災センター 特任准教授
防災技術に関する研究・開発・社会実装に従事。行政と専門家だけによる防災の限界に幾度も直面し、全ての人を対象とする防災啓発・防災教育の必要性を痛感。あらゆる分野の人を対象に「命と生活を守りきる防災」をテーマに事前の備えの具体的な手順の普及に努める。県民の生命と財産を守るために研修、講演、訓練企画指導などに携わり、精力的に活動を行う。

第1部 地域自主防災の仕組みづくりについて
(18:30～19:30)
地域の人や地域が守る、そのためには地域の一人ひとりが何を学び、誰がどう動くのかを考えていく必要があります。講師の村岡先生から、その仕組みづくりについて学びます。

第2部 意見交換会
(19:30～20:30)
第1部の質疑応答のほか、関市まちづくり市民会議「生き延びる」チームと共に、関市で地域自主防災の仕組みができるための意見交換会を開催します。

関市まちづくり市民会議って？

市民が自ら関心の課題を見つけ、その解決方法を行政へ提案する会議です。本チームでは、屋敷に地域にいますお年寄りや、災害時に地域に支えらる仕組みが弱いことを課題に挙げ、今回の事業を実施しています。

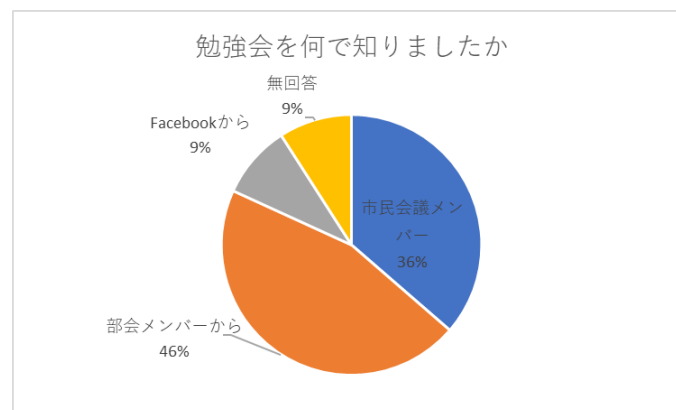
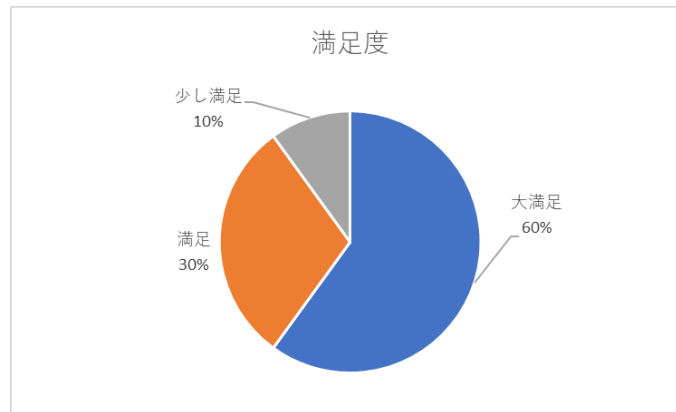
申込・お問合せ先
関市市民活動センター 千原町2丁目18番地1
TEL 0575-24-7772 メール info@seki-siminkatudo.com
主催 第7期 関市まちづくり市民会議「生き延びる」チーム



(上) 事業のチラシと勉強会の様子

Ⅲ 実施結果

参加者からの満足度は、ほぼ満足という結果でした。
参加者の多くは、部会メンバーから参加した人がほとんどでした。



勉強会を通じて学んだこと

- ・ 防災の本質は、災害が「起きたあと」のことを考えるのではなく、災害が「起きるまえ」にどれだけ自分の命を守れるか（自助）が大前提である。
- ・ 人生の節目の時（敬老会やサロン、若い方には母子手帳を受け取る時など）に「防災の備えは大事ですよ」と啓発する機会が必要である。
- ・ 地域でルールを作るときや、様々な制度創設の際に、防災の観点を含めることが必要。
- ・ 半永久的に効果が残る仕組みとして、地域で行ったことをマニュアル化していけば、その地域で引き継がれていき、ほかの地域にも広がっていく。

参加者からの感想

敗戦処理の言葉がちょっとショックでした。
「守っておく」印象に残りました。普段・誰にでも、いつでもできることを
「まもっておく」という考え方が印象に残りました。
「過去に、完結しておくべき」このキーワードが大切ですね。
防災の成果、何をもって満足するかなどは面白かったです。 共助ではなく自助する必要性を考えました。
広い防災のイメージから未来に生きておくための防災意識への働きかけが大切だと思いました。 もっと明確に実行へ移せる設定が必要だということがわかりました。
「敗戦処理」イコール「避難所」は言い得て妙です。 これが絶対な解決策がないことがわかりました。
自主防災でなく防災を考える。 大きく手を広げず口コミのような伝え方を続けることがわかりました。
着眼点をきちんと定めることの大切さを実感しました。 スタート地点が異なると話が噛み合わない原因だということもわかり、絞り込みの必要性を理解しました。
自地域で取り組めればいいなと思いました。

IV その成果と見えてきた課題

《成果》

共助の仕組みづくりを考える前に、自助を促す仕組みが必要

当初は「昼間の地域にいる高齢者を誰が・どのように守るのか（共助の仕組みづくり）」ということ学ぶために勉強会を開催しましたが、必要なのは被災する前に備えておくこと、守っておくことこそが一番大切だと気付かされました。

《課題》

高齢者と関わる人々や団体の参加がなかった

今回私たちが開催した地域防災勉強会には、高齢者とかかわる人々や団体の参加はありませんでしたが、今後は高齢者につながる人々にも、防災や事前の備えを意識していただくために、あらゆる機会をとらえて防災意識の啓発、働きかけをすることが重要だと考えます。

V 提案と提案理由

提案 1	高齢者世帯に対して、「防災チケット」を発行してください
提案する課	危機管理課
概要	<p>防災に関心のなかった高齢者が、事前の備えについて確認できるよう、減災のアクションが一覧になった「防災チケット」を渡してください。</p> <p>具体的には、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家具固定器具の支給及び取り付け ・トイレ凝固剤の配布 ・非常持出袋の中身の確認及び指導 ・家具移動や処分の手伝い ・家屋の耐震診断 <p>などのサービスを受けられることが望ましいです。</p>

提案 2	<p>「防災チケット」は、民生委員や自治会、社会福祉協議会など高齢者に関わりのある人から手渡し、共に確認しながら、本人に説明してください。</p> <p>また、高齢者と普段から関わりがあるあらゆる団体において防災の講習会を開催してください。</p>
提案する課	福祉政策課

「生き延びるチーム」

概要	提案 1 で発行した「防災チケット」を、普段から対象者とかかわりのある民生委員などから手渡しして、一緒に確認しながら、本人に説明してください。 また、民生委員や、自治会、社会福祉協議会など、普段から高齢者につながりのあるあらゆる団体において、防災の講習会を開催してください。
----	--

提案の理由	<p>1. 事前の備えとして必要なもののチェックリストと、実用できる物の支給をすることで (1) 自助について具体的に意識するきっかけを作ることができる、(2) 自助の方法を周知することができる と考えます。</p> <p>2. 民生委員や自治会、社会福祉協議会など、普段から高齢者とかかわる機会が多い方から、チケットを直接お届けするなど、関わる人を増やすことで、地域と高齢者のつながりを作り、深めていくことができると考えられます。</p> <p>また、高齢者を支える地域の団体の人たちが防災の講習を受けることで、高齢者を対象とした事業（敬老会やサロンなど）の中で、防災について考える機会を設けるなど、防災意識の向上につながると考えます。</p>
-------	---

VI 今後の展開

防災の取り組みは、それ単体での活動だけでは関心が広がりにくい面があります。これまでの地域行事と組み合わせたり、対象者と関わりのある組織と連携して取り組むなど、新しく事業を作るのではなく、既存の活動や組織を見直しながらできることを考えていくことが大切です。防災をきっかけに、高齢者だけでなく、子どもや障がい者など地域の弱者を地域で守っていくという意識をつくることができ、地域における福祉などの活動も活性化していくことが期待できます。

● 高校生が関の魅力を楽しむ生活を送るために ●

私たちが目指す関のまちづくりの宣言文

私たちの目指す姿は、「関市内の高校に通う高校生が関の色々な楽しみ方を知ることができる」という関市です。そのために、「関の高校生が関の魅力を楽しめていない」という課題に取り組むことにしました。

課題の原因は「地域の魅力を知る機会がない、公共交通を活かしておらず移動手段に困る、お店等が、高校生が興味を引くスマートフォンでの発信ができていない」ということですが、今回は特に、「公共交通を活かしておらず移動手段に困る」に対して取り組みます。

これを解決するために、行政、企業、市民活動などの他組織の活動を踏まえ、私たちは「高校生に近い世代が多い」という強みを生かし「コミュニティバスの「乗り方」を説明した動画（コマ送り動画）を作成や、高校生（若者）へおすすめしたいスポットへのバスでの行き方を楽しい動画（コマ送り動画）で伝える」事業をすることで、関市の課題解決にもっとも貢献することができると考えています。だから私たちは「高校生向けバス活用動画をすることで 関市内の高校に通う高校生が関の色々な楽しみ方を知ることができる」という関市を実現します。

I 取り組んだ課題

- ① 地域の魅力を知る機会がない
 - ・お店を知る機会もなく、川や山などの自然を楽しむ機会も少ない
 - ・お店等が、高校生が興味を引くスマートフォンでの発信ができていない
 - ・Instagramで効果的に発信しているお店が少ない

- ② 公共交通を活かせておらず、移動手段に困る
 - ・公共交通の乗り方がわからない、情報が多く煩雑、ウェブでのわかりやすい発信が少ない

【その理由と根拠】

このテーマにおける課題の原因は何か、担当課を交えながら、部会メンバーで議論しました。

1. 市民協働課の VS プロジェクトに参加する高校生は、「関で遊びに行くのは、ほとんどマージ」と言います。そのほかでもカラオケやチェーンの飲食店が上がり、関の個人商店にはあまりいかないことがわかりました。

2. 大学生の部会メンバーの中で、「高校生の時にコミュニティバスを利用していたが、その時に、大変使いづらさを感じていた。年配の方から、『なんで高校生が利用しているのか』という目で見られた印象を受けた」という経験をした人がありました。「お年寄りが乗るのが当たり前」というイメージなどから、高校生として利用しづらいことも考えられます。また、イメージだけでなく、普段から利用していない高校生にとっては、バスの利用の仕方が分からないため乗らないといった声もあり、わかりやすい発信も必要であると考えます。

II 取り組んだ活動

高校生に向けたモニターツアー

「高校生のための関の食べ歩きバスツアー～いちご狩りとかカフェとか～」の実施

日時：平成 31 年 4 月 2 日（火）8 時 50 分から 17 時 15 分

参加者：6 名(関高校 5 人、帝京可児高校 1 人)

参加費：1,000 円

内容：「高校生にチェーン店ばかりではなく、関の魅力あるお店や名所を楽しんでもらいたい」ということや、普段自転車しかない交通の問題でも、公共交通のバスを利用しながら、魅力ある場所に行けることを知ってもらうことを目的として開催しました。

はじめに、関の魅力の一つとしてモーニングを体験。次に、おしゃれなカフェとして人気の CAFE Cota Chiot(コタシオ)で飲み物代だけでついてくるパンやサラダを堪能しました。

そして、関のオープンカフェマビッシュで名物のサンドイッチをテイクアウトし、関善光寺へ。最後には、ふる里農園美の関でいちご狩りを行いました。参加した高校生からは「知らない魅力を知れたので、また遊びにきたい」との声をもらいました。



(左) イベントチラシ

(右) CNNに取材の様子



イベント実施の様子

Ⅲ 実施結果

■参加してくれた高校生にヒアリングを実施しました。

- ① コミュニティバスに乗ったことある人 2人/6人
- ② なんで今までバスに乗っていないのか
- ・自転車で行けから
 - ・親といくから
- ③ どうなったら高校生がバスにのりやすいか
- ・バスの券の取り方がわからない
 - ・バスの乗り方がわからない
 - ・バスの時間を増やしてほしい
 - ・バス停をもっと目立つようにする

高校生のための関の魅力食べ歩きバスツアー 会計報告		
<収入の部>		
費 目	収入金額	備 考
1 補助金	23,590	センターより
2 参加費	12,000	1,000円×12人
合 計(A)	35,590	
<支出の部>		
費 目	支出金額	備 考
モーニング	5,590	コタシオ
ランチ	5,160	マビッシュ
戒壇めぐり	3,000	関善光寺
牛乳	1,440	関牛乳
いちご狩り	20,400	ふる里農園
合計(B+C)	35,590	

IV その成果と見えてきた課題

バスツアー後に参加してくれた高校生にグループヒアリングを実施しました。

〈成果〉

① 高校生のコミュニティバスに関する実態について

- 1) コミュニティバスに乗ったことある人 2人/6人
- 2) なんで今までのらなかったのか

バスの券の取り方、乗り方がわからない、時間が少ない、目的地へのバス停が近くにあるか分からない、自転車で行ける範囲で親に乗せてもらうなどといったことが分かりました。

② 高校生はバスのことを知らない

- ・バスの時刻表で計画をたてれば色んなところへいける
- ・思ったよりバスの値段が安かった
- ・もっと関でお店を発掘したい
- ・知っているお店の近くにバス停がある
- ・デマンドバスが意外と柔軟
- ・デマンドバスの時刻表はほとんど間違っている(予約がないとスルーされてしまう)

③ 高校生の関で遊ぶことに対する実態について

1) 何で調べていくか

スマートフォン(Google 検索)や、親から。
SNSには上がっていない。上がってれば見る。

2) 今回のツアーで特に楽しかった場所

- ・コタシオ 友達とカフェに行くのによさそう。
- ・善光寺 鐘と卍戒壇、戒壇巡り 個人的には行こうと思わないから、カフェのランチとセットにして行けるとピクニック気分が楽しい。
善光寺などそんな興味ないと思っていたけど知ったら楽しい場所が多い。
数年ぶりに子どもの頃を思い出した。
- ・マビッシュ これまで入ってみたかったが、入りづらくて行ったことがなかった。
- ・ふるさと農園 動物と触れ合えた。動物いることを知らなかった、もっと宣伝してほしい。

3) 高校生ならではの楽しみ方をしていた

今回の事業から、高校生と大人と楽しみ方では基準が違えることが分かりました。特に写真を撮ることの大切さが必要で、多くの高校生は常に「写真映え」するもの・ことを探しています。写真を撮るときは常に動きをつけることや自撮りで撮るなど、

写真映えが重要なキーワードになると考えられます。

《課題》

① 高校生はバスの利用方法を知らない

高校生が公共交通を活用して、関を楽しまないのは、バスのことを知らないことが大きいということが分かりました。ただし、バスの利用方法を知れば、バスに対してポジティブな印象を持つ子が多いということも分かり、利用方法について分かりやすい情報発信が必要であると考えます。

② スマートフォンで手軽に情報が取れることが必要

高校生が楽しめるスポットでも、ライン、インスタグラム、ユーチューブなど、SNSを中心としたスマートフォンでとれる情報が不足していると考えられます。高校生が情報収集として使うツールからの情報発信が必要です。

V 提案と提案理由

提案 1	コミュニティバスの「乗り方」を説明した動画（コマ送り動画）を作成してください
提案する課	都市計画課
概要	バスの乗り方は各地で違うため、知らない不安になり、よく分からないがために乗ることにつながらない点があります。バスの乗り方を動画で説明し、それを web サイトはもちろん、バス停で QR コードを記載するなど実施してください。

提案 2	高校生（若者）へおすすめしたいスポットへのバスでの行き方を、楽しい動画（コマ送り動画）で作成してください
提案する課	都市計画課
概要	<p>高校生は自分たちが行きたい場所があっても、自転車で行ける範囲や親に頼ることによって行動範囲が狭くなります。しかし、関で楽しめるスポットについては高校生自ら情報を探しています。高校生がアクセスしやすい動画で、目的地までのバスでの行き方を紹介することで、高校生にコミュニティバスを移動手段の選択肢にいれてもらいたいと考えます。また、その動画では、単なる観光スポットを紹介するのではなく、高校生が身近に感じるシチュエーションの動画を制作するのが望ましいと考えます。</p> <p>例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「テスト終わってからの打ち上げは、みんなでバスに乗って〇〇へ行こう！」 ・夏に小瀬の河原へまでバスに行き、川で泳いで、またバスで帰る動画 ・モーニング巡り等 <p>また、高校生だけで動画制作するのではなく、高校生たちが憧れるユーチューバーに監修に入ってもらい、「ユーチューバー〇〇と一緒に動画を作る」チームを公募し、高校生や若者を中心とした動画制作チームを作ると、より楽しいコンテンツが生まれると考えます。</p>

VI 今後の展開

今回事業を行ったことで、高校生からの視点を取り入れたバスの利用促進や、スポット紹介方法を考案することができました。高校生全員がこの動画を視聴し、定着していくことを目指してほしいと考えます。

0～1 歳の子を持つ親が地域や社会とつながるために

私たちが目指す関のまちづくりの宣言文

私たちの目指す姿は、「0-1 歳の子を持つ夫婦が社会や地域との繋がりを
感じながら子育てができる」という関市です。

そのために、「夫婦の時間が少なく、子育ての話し合いができていない」
という課題に取り組むことにしました。

課題の原因は「夫婦のパートナーシップを築ける機会が地域にない、0-1
歳の子を持つパパか子育ての当事者意識が低い、パパには子育て講座に
参加するハードルが高い」ですが、今回は特に「パパには子育て講座に参
加するハードルが高い」に対して取り組みます。

これを解決するために、行政、企業、市民活動などの他組織の活動を踏
まえ、私たちは「現役のパパ、ママがいる」という強みを生かし「パパ向
けの講座」をすることで、関市の課題解決にもっとも貢献することができ
ると考えています。

だから私たちは「パパ向けの講座」をすることで、
「0-1 歳の子を持つ夫婦が社会や地域との繋がりを感じながら子育てがで
きる」という関市を実現します。

I 取り組んだ課題

パパには子育て講座に参加するハードルが高い

【その理由と根拠】

このテーマにおける課題の原因は何か、担当課を交えながら、部会メンバーで議論しました。部会メンバーに「現役のパパ、ママがいる」ということから、当事者の視点をもって課題を考えました。

1. 夫婦のパートナーシップを築ける機会が地域にない

0～1歳の子育ての課題として、「夫婦間のパートナーシップが築けていない」ことが挙げられます。子育てが始まり、これまでとは違う生活スタイルにママのストレスが高まりやすい時期である一方、子育てについてパパとママのお互いのパートナーシップが築けていないと、夫婦間のトラブルが発生します。夫婦だけでは当事者同士のため問題解決しづらいため、他者からのサポートやアドバイスが得られる環境が必要と考えます。しかし、地域には託児や家事サポートなどのサービスはあるものの、夫婦間のパートナーシップが築けるようなサービスはほとんどありません。

2. 0-1歳の子を持つパパの子育ての当事者意識が低い

夫婦間のパートナーシップの形成にはお互いへの理解と協力が必要です。しかし、子育て世代のパパは同時に仕事も忙しい時期であり、ママと同じくらいの子育て意識にはなかなかありません。

3. パパには子育て講座に参加するハードルが高い

パパの子育てへの意識を高めるためには、講座など、外部から知識やスキルを得る機会が必要だと考えられます。しかし、男性が「子育て講座」に参加するイメージが低く、参加することへのハードルが高いと考えられます。ハードルを高く感じずに、気軽に参加できる入り口が必要だと考えられます。

0-1歳の時期は、子育てを楽しみ、家族の絆が強くなる時期でもありますが、ママだけが育児、家事など抱え込んでいるのが多数で夫婦、家族の亀裂が入りやすい時期でもあります。全国の虐待死亡件数のおよそ60%が0-1歳、虐待したのは60%が実母です。平成30年岐阜県ひとり親の調査によると、母子世帯のうちの半数50%が、子どもが0-2歳のときに離婚しています。そのためにも、0-1歳の子を持つ夫婦向け、パパ向けの支援が必要だと考えます。

今回は、「パパには子育て講座に参加するハードルが高い」ことに対して、取り組むことにしました。

II 取り組んだ活動

パパ向け講座

「俺のおつまみと子つまみづくり」「漢の円空スプーンづくり」の実施

① 俺のおつまみと子つまみづくり

日時：令和元年5月12日（日）10時～13時

参加費：2,000円（別途託児料500円）

対象：0～1歳の子を持つパパ

開催場所：安桜ふれあいセンター

講師：近藤賢一さん（鮎 紺乃）

内容：パパのおつまみと、同じ材料を使った子どもの離乳食を作りました。

参加者：7名

② 漢の円空スプーンづくり

日時：令和元年6月23日（日）10時～13時

参加費：1,500円（別途託児料500円）

対象：20～30代の男性

講師：森田博己さん（木彫作家）

内容：子どもの離乳食用のスプーンづくりを実施しました。

開催場所：わかくさ・プラザ2階 創作実習室

参加者：6名

俺のおつまみと子つまみづくり

5/12 (日)

10時～13時

会場：安桜ふれあいセンター（申込受付専用）

参加費：2,000円（別途託児料500円）

対象：0～1歳の子を持つパパ

講師：近藤賢一さん（鮎 紺乃）

申込先：関市市民活動センター（千原町2丁目1番地）
TEL 0575-24-7772
Mail info@city-smskstudio.com 子育て部会

関市まちづくり市民会議とは、市民が自ら関市の課題を見つけ、その解決方法を行政へ提言する会議です。本チームは、未就学児の子を持つ親が、社会や地域とつながりがいかに課題に寄り、今回の事業を実施しています。

漢の円空スプーンづくり

6/23 (日)

10:00～13:00

会場：わかくさ・プラザ2階 創作実習室

参加費：1,500円（別途託児料500円）

対象：20～30代の男性

講師：森田博己さん（木彫作家）

申込先：関市市民活動センター（千原町2丁目1番地）
TEL 0575-24-7772
Mail info@city-smskstudio.com 子育て部会

(上) 広報せき4月号掲載内容

チーム「子育て」



(上・左下) 5月イベントの様子



(右上) イベント後、参加者が家族に作った料理

(下) 6月イベントの様子

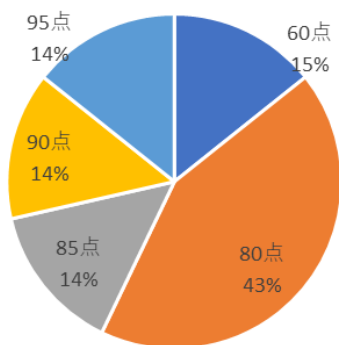


Ⅲ 実施結果

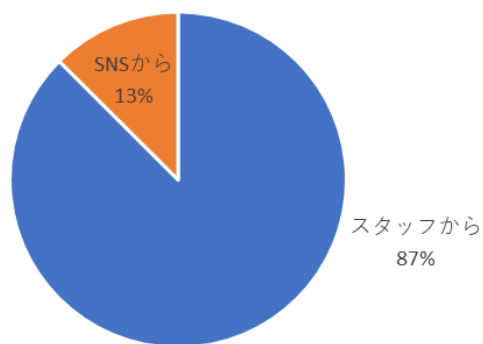
・5月「俺のおつまみと子つまみづくり」アンケート結果

アンケート回収数：7通（回収率100%）

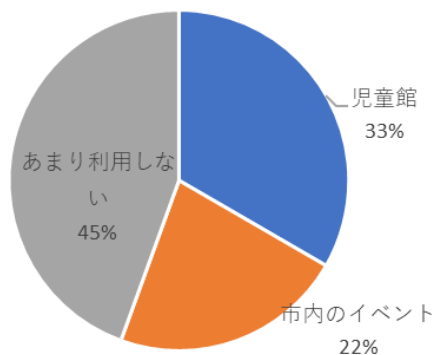
満足度



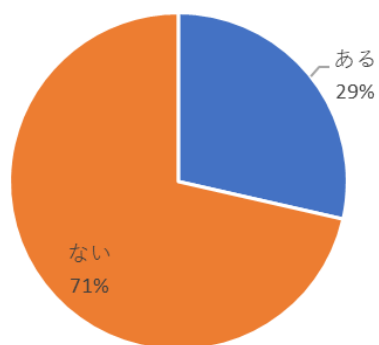
参加理由



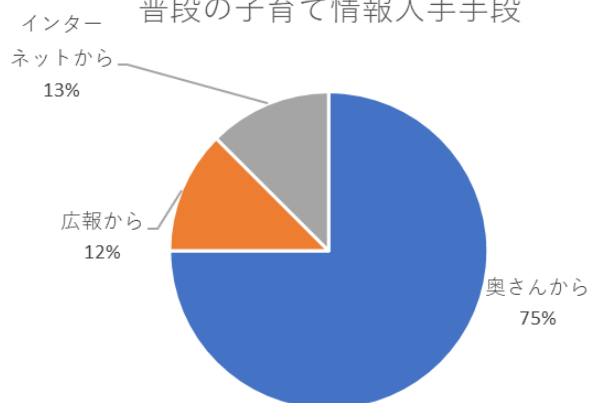
普段利用する子育て支援サービス



子育て講座の経験



普段の子育て情報入手手段



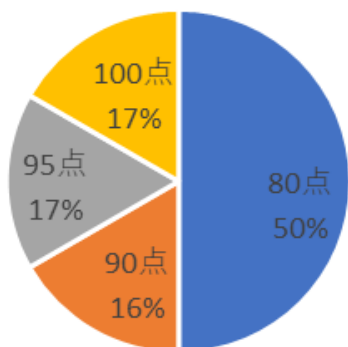
【収支】

費用	単価	人数	計	収益			計
講師謝礼	15000	1	15000	参加費	2000	7	14000
材料費（参加者のみ）	1000	7	7000	託児	500	3	1500
材料費（メンバー）	1000	7	7000				0
託児（一人2時間）	1600	3	4800				0
調理室ガス代金	500	1	500				0
計			34300				15500
							-18800

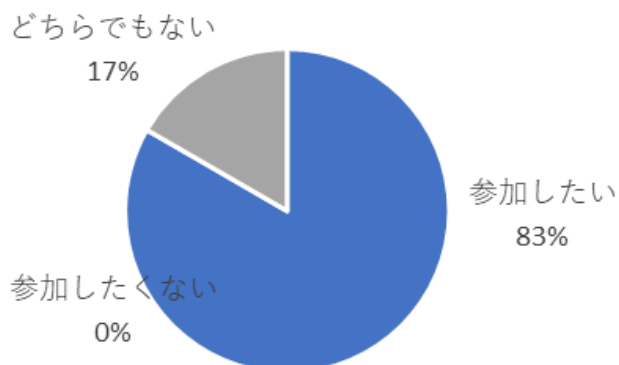
・6月「漢の円空スプーンづくり」アンケート結果

アンケート回収数：6通（回収率100%）

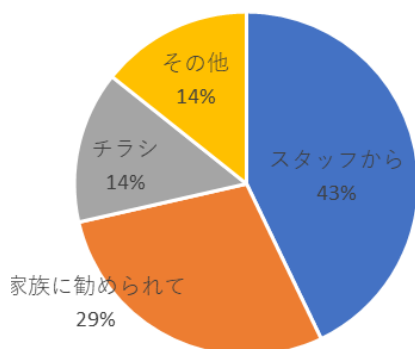
満足度



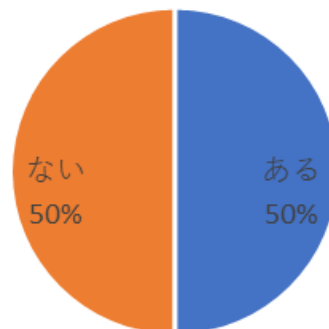
また参加したいか



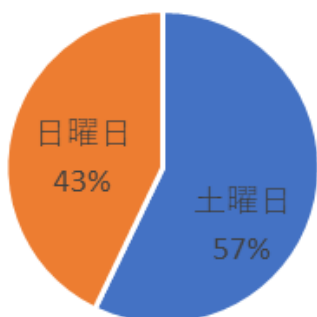
参加理由



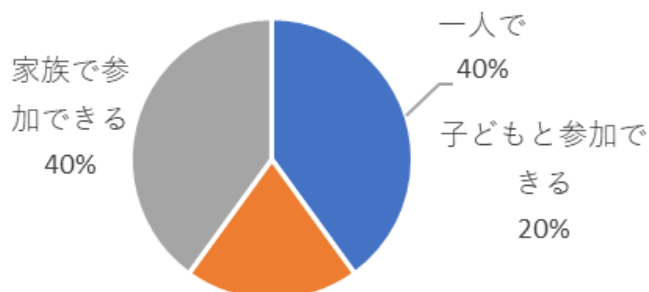
子育て講座の経験



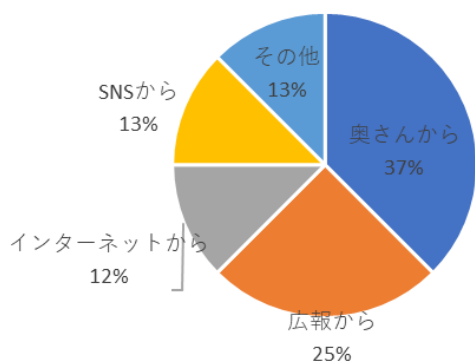
希望実施曜日



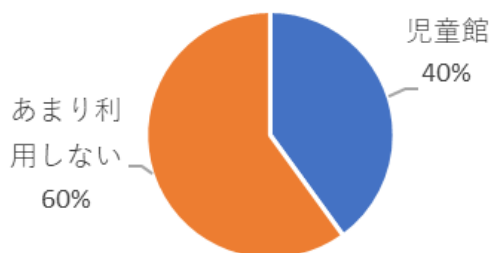
希望参加形態



普段の子育て情報の
入手手段



普段利用する
子育て支援サービス



【収支】

6月23日							
6人参加							
費用	単価	人数	計	収益			計
講師謝礼（当日）	52261	1	52261	参加費	1500	6	9000
講師謝礼（製作費）		1	0	託児	500	2	1000
事前研修		1	0				0
材料費	2339	1	2339				0
託児（一人2時間）	2700	2	5400				0
冷暖房費			0				
計			60000				10000
							-50000
						5月・6月イベント計	-68800

IV その成果と見えてきた課題

〈成果〉

- ① アンケート結果から、満足度 80%以上、「また参加したい」が 80%以上の回答が得られました。
- ② 参加者からは、
 - ・企画に魅力を感じた
 - ・託児付きで良かった
 - ・この料理なら作れそう
 - ・早速スプーンを使おう
 - ・帰ったら奥さんに話そうなどの声をいただき、実際にイベント後も家族に料理を作ったり、作った円空スプーンで子どもに離乳食を食べさせている参加者が見えました。

〈課題〉

① パパに情報が届きにくい

今回開催した2つのイベントの集客は、市内チラシ配架、広報、SNS を利用して行われましたが、定員満員の集客にはなりませんでした。子育て講座をわかりやすく見つけやすくするためにも、特設 WEB サイトを制作するなどといった、更なる周知が必要だと考えます。

また、参加者の参加理由としては、部会メンバーからの呼びかけのほか、家族からの勧めにより参加した人が多く、魅力的な講座内容だけでなく、家族からも勧められる内容であることが必要だと分かりました。

② パパ同士のつながりづくり

今回のイベントは「パパ同志のつながりづくり」も目的として開催しましたが、参加者間では積極的に会話が始まることはなかったため、話をする時間を設けたり、主催者から話を促すなど、講座を通じて会話が弾む工夫が必要であることが分かりました。また、単発の講座だけでなく、連続講座もあることで、つながりが生まれると考えます。

③ ママは企画に賛同するが、パパは…

今回のイベントはママたちからの評判が高い内容でした。「ぜひ参加してほしい」という声や、「ママも参加したい」との声が上がりました。一方、パパとしては、「講座に参加するよりも休みたい」、「家族サービスに時間を充てたい」などの声もあり、0~1歳の子を持つパパにとって、一人で講座に参加することは難しく、夫婦や、家族で参加できる講座もあるとよいと考えられます。

V 提案と提案理由

提案1	パパが主役になれて、夫婦で参加が可能な託児付きの子育て講座を実施してください
提案する課	子ども家庭課
概要	<p>パパが主役になれて、夫婦で参加が可能な託児付きの子育て講座を実施してください。</p> <p>講座の具体例としては、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・料理講座（オール関市産の材料を使用）※料理講座はコミュニケーション的にも◎ ・家事 ・日曜大工 ・How to アウトドア ・夫婦のコミュニケーションをとる講座 ・助産師の産前産後ケア「つなぐ」による講座 ・男もつらいよ パパだけが参加できる講座 （子育て漫画を描いた漫画家をゲスト呼ぶなど） <p>このような企画を、行政だけでなく、子育て世代の声を取り入れて企画することが望ましいと考えます。</p>

提案の理由	<p>夫婦のパートナーシップを築くには、当事者同士だけではなかなか解決できません。講座という形で、夫婦の時間づくりを行政がサポートすることで、子育てしやすいまち関市を実現できると考えます。</p> <p>また夫婦共通の講座体験があることで、夫婦のパートナーシップが築かれるだけでなく、地域社会とのつながりを生み出すことにもなります。</p>
-------	--

VI 今後の展開

今回事業を行ったことで、子育て世代だけでなく、産前や、結婚前からの子育てに関心を持つことの必要性を感じました。子育て講座が定着した先には、産前・結婚前の男性を対象とした事業も作ることで、結婚前の関市の男性像として、子育てのスキルを身に着けた男性が増えてほしいと考えます。

平成31年4月9日
地域防災勉強会



令和元年5月12日・6月23日
俺のおつまみと子つまみを作る会
漢（おとこ）の円空スプーンづくり



平成31年4月9日
高校生のための
関の食べ歩きバスツアー



第7期関市まちづくり市民会議

- 委員 チーム「生き延びる」：本間 貴久男（リーダー） / 多田 富士夫 / 上野 まゆみ / 梶山 貴子 / 朝倉 勝美 / 紅谷 美代子 / 亀山 高志
- チーム「@SEKI」：亀山 まひろ（リーダー） / 西部 敏子 / 平川 貴久 / 土屋 隆 / 山本 凌平 / 包子 賢一
- チーム「子育て」：河上 俊一（リーダー） / 鈴木 美樹 / 江坂 侑 / 平野 大樹 / 小松 倫子 / 朝倉 あけみ / 藤井 未夢 / 長尾 育美
- 発行日 2019年7月27日

発行 関市まちづくり市民会議（事務局：関市市民活動センター）
関市千年町2-18-1 安桜ふれあいプラザ1F
TEL 0575-24-7772 FAX 0575-24-7660
E-mail info@seki-siminkatudo.com